

マツダと一緒に沖縄を楽しもう！

TAKE FREE!
ご自由にお取りください

mazda

EVOLUTION × DEEPENING × FRIENDS

シンカ!

vol.07 春
2025



撮影地・沖縄マツダ 浦添店
車種 CX-80(メルティングカップパーメタリック)

沖縄マツダ販売株式会社

FM-OKINAWA
マツダZOOM ZOOM HOUR



沖縄マツダ公式
Instagram



沖縄マツダ公式
ホームページ





広々としたショールームにはアーティザンレッドプレミアムメタリックのCX-80も展示



リフトが10基以上もある大型のサービス工場を併設。スタッフにお声がけいただければ工場内の見学も可能です

全国でも最大級の規模を誇る店舗

沖縄マツダ浦添店



ロードスター35周年記念車を囲む浦添店のスタッフ。さまざまな部署の面々が一致団結してお客様をサポートします

40人のスタッフが一致団結

前々号では北谷店、前号では知花店と、沖縄マツダの新世代店舗を紹介してきました。今号では、いよいよ3店舗のうち最大の規模を誇る浦添店を紹介します。

浦添市勢理客、国道58号沿いに立地する浦添店は、ボディーの修復を手掛けるボディーアートセンターを併設する大型店舗です。本土復帰前の昭和42（1967）年からこの場所で営業を続けてきましたが、平成29（2017）年に新世代店舗としてリニューアル。令和4（2022）年には国場店と統合し、さらに大規模な店舗となりました。現在40人ものスタッフが勤務しており、新車、高年式中古車の販売、整備、点検、板金・塗装、自動車任意保険など、お客さまのカーライフ全般をトータルサポートしています。40人という人数は、全国マツダのディーラー店舗の中でも最大級の規模なんです」と田中貴裕店長は話します。

本島南部から浦添にかけての多くのお客様が集中するため、スタッフはそれぞれの仕事に大忙しです。

「他の店舗に比べると、点検・修理をこなさないといけない台数も多いので大変です。でも、スタッフ

に団結力があるというか、忙しい時には誰かがアシストに入って早く終わらせる感じですね（サービスエンジニア・宮城一輝）

「スタッフの仲はとてもいいですよ。協力し合うことで乗り切っていますね（店舗スタッフ・富山亜彩）」

時には部署の垣根を越え、スタッフがお互いにサポートし合うことで、円滑な店舗の運営を実現しています。

エンジニアもお客様に対応

浦添店のスタッフを率いる田中店長は、もともとはエンジニア（整備）という経歴の持ち主です。

「エンジニアから店長になるのは珍しくて、私の知る限り、沖縄マツダでは初めてではないかと思っています」

エンジニア出身の視点を生かした店舗運営を心けている田中店長。「エンジニアはお客様の視点を持ちにくいこともあるので、あえてお客様と直接多くお話しするよう機会を作るようにしています」と話します。お客様からも、直接クルマを触るスタッフの顔を見ると安心できると好評です。

「営業はクルマの販売だけ、整備士は整備だけとか、そういう垣根は今、だいぶ取り除いています」



1989年の初代NAのデビューから、昨年で35周年を迎えたマツダ・ロードスター。2月8日(土)には沖縄マツダ浦添店で「ロードスター35周年記念車アンベールイベント」が行われ、多くのマツダファンやロードスターオーナーが詰めかけました。

昨年末に全国でニューリリースされた35周年記念車は、予約受付開始からすでに国内向け生産計画台数の1000台を上回り、県内からも21件の申し込みがあったといいます。

この日、お披露目されたのは35周年記念車の「ソフトトップモデル」。ロードスター特別仕様車の原点である「ヴィンテージ」をテーマに、深みのあるアーティザンレッドプレミアムメタリックのボディカラーと、上質なスポーツタンの幌およびインテリアを組み合わせ、熟成を極めたロードスターに仕上げられています。

「アーティザンレッドはMAZDA6の周年記念車やCX-80の専用色として使われています。今までのロードスターのカタログモデルにはなかった色で、今後も35周年車にしか使われません」と沖縄マツダの山本卓弥企画グループ長が説明してくれました。

宮里豊社長はあいさつで「ロードスターは被爆地であった広島で生まれ育ち、太平洋戦争の激戦地であった沖縄でも多くの皆様に愛され続けています。平和でなければ、このようなツーシーターの車で走ることはできません。そういう意味でも平和のシンボルであるロードスターを、次の世代にもつなげていきたい」と話しました。



1. 沖縄マツダ・宮里社長(右)とNDオーナーの代表によって、35周年記念車がアンベールされた
2. 特別仕様のスポーツタンのインテリア
3. 宮里社長のあいさつ
4. ドア後方には35周年記念車の記念オーナメントがあらわれている



1. 車検や点検時の待ち時間には、ラウンジ内のソファで快適に過ごせます。Free Wi-fiも完備
2. お子さま連れのお客様にうれしいキッズスペースも完備。ぜひご家族揃ってご来店ください
3. 浦添店の敷地内には、お客様の愛車を修復するために必要不可欠な技術、設備、環境、情報の全てが揃ったボディアートセンター(BAC)も併設
4. BAC内の塗装ブースでは、有害物質がほとんど含まれていない塗料を使用。メーカー直結で「匠塗(TAKUMINURI)」にも対応します



田中貴裕店長



サービスエンジニア・宮城一輝

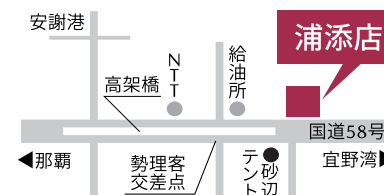


営業・我喜屋広一



店舗スタッフ・富山亜彩

沖縄マツダ 浦添店



浦添市勢理客 4-1-5
営業時間 9:30 ~ 18:00
定休日 毎週水曜日、第3火曜日
TEL (098) 877-6210

昨年の4月に店長に就任し、覚えることが多く大変だったと苦笑しますが、その一方で「部下の成長を直接見ることができているのがやりがいです。また、エンジニアも頑張れば店長になれるという目標に引き締めます。」と表情を

「規模が大きい分、試乗できる車種も多く、中古車の台数が多いのも浦添店の強みですね(営業・我喜屋広一)」

今回話を聞いたスタッフ4人が共通して口にしたのが、「お客様の笑顔が一番うれしい」という言葉。お客様のカーライフをサポートするためスタッフ一同が、心を一つにして頑張っています。



1.現在の教習車はMAZDA2セダン28台。カラーは、ソウルレッドクリスタルメタリック(AT車)とジェットブラックマイカ(MT車)の2種類。波をイメージしたマークが印象的な車体のデザインは公募で選出 2.海を目の前にした広々とした教習コース 3.路上教習前の点検作業を教える指導員 4.操作がしやすいオルガン式アクセルペダル。MT車は6速マニュアル 5.同校の校舎。職員は指導員32人を含めて48人。宿泊施設もあり、県内外の教習生に人気です 6.校長の上原久さん(中央)と事務員の安里竜茄さん(左)・平良光希さん

マツダ教習車を県内でいち早く採用

糸満自動車学校

20年前に導入開始

目の前が海という絶好のロケーションにある糸満自動車学校。1958年の創立以来、多くの卒業生を車社会に送り出してきた歴史と伝統のある教習所です。県内で初めて二輪専用コースを設置したり、オンラインでの学科教習を始めたしたりしたほか、キャラクターを活用した「体験型バラエティ学科教習」を導入するなど、教習体制の充実を図ってきました。

普通自動車免許の教習車として「マツダ教習車」をいち早く採用したことも知られる糸満自動車学校。2005年、代替わりのタイミングで初代アクセラ教習車28台を県内で初めて導入しました。カラーは教習生や職員などに行ったアンケートをもとに、赤、青、白の3色を採用。県外では黄色い教習車などもあり、懂れていたという校長の上原久さんは「白は一般的すぎて楽しくないじゃないですか。それでカラーを絶対取り入れたいと提案したんです」と話します。白い教習車が主流だった当時は、メディアでも紹介されるなど話題にもなりました。特に赤い教習車は好評で、見かけた人からも反響があったそうです。

走りやすさも魅力

以来、マツダ教習車を採用している同校。2014年には3代目アクセラ教習車を導入、昨年10月からは国内販売していないMAZDA2セダンタイプをベースにした教習車に代替わりしました。

「魂動(こどう)」デザインを採用した外観の魅力はもちろん、教習生や指導員にとっての扱いやすさも評価している上原さん。現在使用中の教習車は「5ナンバー枠のコンパクトなサイズで、最小回転半径も小さく、運転もしやすいです」と話します。マツダ車はオルガン式アクセルペダルで踏み外しがなく、走り出しから高速教習まで安定した走りが実現できているといいます。

マツダ教習車で学んだ卒業生は2万人を超えるという同校。人生で一番初めに運転するスタイリッシュで操作しやすい教習車で、快適な技能教習ライフを提供しています。

info
糸満自動車学校
沖縄県糸満市字糸満2278番地
☎0120-39-9755





SUP世界4団体統一王者 荒木珠里選手が北谷店で 活動報告会を開催

左・ボードにはマツダのロゴが入っています
右・波と風を読み、SUPのボードを巧みに操る荒木選手

18歳の若きオーシャン・アスリート、荒木珠里(しゅり)選手。名護市安部で生まれ育ち、幼い頃から海を遊び場にしてきた荒木選手はアスリートの父の影響でSUPを始め、高校進学後にプロの道へ。18歳となった昨年には、SUP主要4団体の世界大会で統一王者の座に輝きました。

その圧倒的な才能に注目したマツダは、荒木選手のスポンサーに就任。沖縄マツダでも、荒木選手が所属するKANAKA沖縄のイベントに、発電機の利用とボードの運搬を目的としたMX-30の貸し出しを行ったり、報告会を開催したりと活動を支援しています。

*

昨年12月22日、北谷店ショールームで開催された荒木選手の活動報告会では、動画を交えつつ世界大会の様子を臨場感たっぷりに紹介。ライバルとの激闘、高度な心理戦など手に汗握るレースの様子に70人を超える来場者が熱心に耳を傾けていました。

活動報告会と前後して、荒木選手は運転免許を取得。自分が生まれ育ったやんばるの海で、SUP普及を目的に開催するイベント「O2Y winter」のため、沖縄マツダが提供したMX-30をトレーニングの行き来に活用しているそう。同イベントでは発電機を使わず、全ての電力をPHEVのMX-30からまかなっており、人にも自然



左・昨年12月22日、北谷店で開催された活動報告会の様子。沖縄マツダの宮里豊社長が花束を贈呈しました
中・しっかりした口調で挨拶する荒木選手
右・活動報告会には荒木選手のボードを載せたMX-30も登場

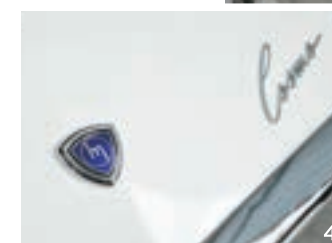


1967年に初のロータリーエンジン搭載車として発売された「コスモスポーツ」。現在も公道走行可能な貴重な1台が、昨年末に沖縄マツダ知花店に展示されました。

「幼稚園の時から欲しかった夢の車です」

そう話すのは、オーナーの堀川恭太郎さん。県内全域でロードサービスを提供している「NRS琉球」の代表で、自他共に認めるMAZDAファンの彼は20台以上のロータリー車を所有しています。「帰ってきたウルトラマン」の劇中車として登場し、堀川さんが車好きになるきっかけとなったコスモスポーツは、コレクションの中でも特別な一台だと教えてくれました。エンジンをかければ「地をはうような、余裕のある走り」を楽しませてくれるそうですよ。

知花店での展示期間中は、国道329号からもよく見える位置にコスモスポーツをレイアウトしました。来店したお客さまの中には、ドライブ中にコスモスポーツの姿を見つけて、わざわざ道を引き返してきたという方もいたそうです。



- 1.昨年末、沖縄マツダ知花店に展示された堀川恭太郎さんのコスモスポーツ。総生産台数は1167台と希少な車です(提供写真)(※展示は終了しています)
- 2.エンジンは前オーナーによって純正の10Aから13Bに換装済み。足回りも強化されています
- 3-4.今も色あせない当時のエンブレムやデザイン
- 5.堀川さんが所有する歴代ロータリー車の数々

沖縄マツダのスタッフが、愛車と走ってきた人生を振り返る新コーナー。
マツダ車以外のクルマも含め、クルマ愛を語ります!!

私の愛車History²



4台目となる現在の愛車RX-7(FD)。LSDを交換するなどして乗っています(提供写真)

OWNER

RX-7
一筋です!

サービス営業部
総括業務チーム
比嘉清一さん(25歳)

RX-7に夢中です!

■ロータリーエンジンの虜に

最初のクルマは、母親から譲り受けたスズキのアルト。でも、どうしてもロータリーエンジンのクルマに乗りたかったので、親戚のRX-8を格安で譲ってもらったんです。そのRX-8を自力で整備し、売ったお金で最初のRX-7を購入しました。ミッションオイルやデフォイルなどの油脂類、エンジンマウントなどを全部交換し、ボディーコーティングも全部自分でやりましたよ。ただ最初のRX-7(FD)3S・ガソリンは不慮の事故で廃車になってしまっ、今のRX-7は2台目です。

僕は、RX-7が好きというところから入ったんですよ。きっかけはクルマのゲームで「何だ、このバカバカ開くライトは」って(笑)。リトラクタブルヘッドライトのクルマは日産の180SXやトヨタのAE86など、いろいろありますが、その中でもRX-7はめちゃくちゃスタイリッシュでカッコいいなって。それでロータリーエンジンの歴史を調べうちに虜になり、21歳で沖縄マツダに入社しました。

■ハンドリングが違う

ロータリーエンジンのクルマに乗ってみて感じたのは、走行性のよさです。やっぱりハンドリングがいい。パイロをしていた時、いろんなクルマに乗る機会があったんですが、比べてみても抜群ですね。エンジンがフロントミッドシップマウントなので重量配分がよく、ハンドルを切った時に、自分が思うように曲がってくれます。

RX-8からRX-7FDに乗り換えた時には、パワーの違いを感じました。RX-8はエンジンフィーリングが高回転までグイーンと伸びていく感じで、その音が気持ちよかったです。FDはターボだからパワーがすごいんです。トルクがより強く出ているような感じ。車体も低いので、スポーツカーといった印象です。他に乗ってみたいクルマ?今のところ、RX-7一択です(笑)。どこまでこのRX-7を維持して、どこまで自分好みに仕上げていくか。自分で整備をしながら、これからもずっと乗っていきたいと思っています。

マツダ車の魅力を語る

運転して楽しめるクルマをとことん追求していると感じます。僕にとってクルマとは、乗っていて楽しくなるもの。オモチャの一種なんです(笑)。



2台目のクルマは親戚から譲り受けたRX-8(後期型)



3台目のクルマとなったRX-7(FD)

鯉に恋 in love with CARP

沖縄マツダ販売の社長、
宮里豊が語るカーブ愛

今年のプロ野球沖縄キャンプも無事終わりましたね。2月13日にコザしんきんスタジアムで行われたカープの歓迎式典では、新井監督がムチャ振りして仲田侑仁選手があいさつさせられましたが「沖縄県民の前で野球ができることに感謝しています」って堂々としてましたよ。沖縄マツダは球団にCX-8を貸し出したんです。19日のロッテとの練習試合では、試合前に室内とピッチング練習場を少し見学しました。二俣翔一くんが大活躍でしたねえ。2002年生まれ99番。カープはだいたいヤングなんです。ドミニカから来たファビアンは新入団ですが、結構いいという話です。大瀬良大地や床田寛樹、森下暢仁などのピッチャー陣は安泰。今年こそ頂点奪取できるかな?開幕が楽しみです!

2025春季キャンプが終了。
今年のカープはイケそうじゃ!

外国人選手が活躍する年は
カープが優勝する年じゃ!!

(※ウチナナンチュです)



【整備職(エンジニア)募集】

沖縄マツダでは、整備職(エンジニア)を新卒採用・経験者採用ともに募集中。興味のある方は、沖縄マツダのHPで詳細をご確認いただき、採用担当者に直接お問い合わせください。

雇用形態 正社員

勤務地予定 沖縄県内各店舗

応募資格 国家1級または2級整備士資格取得者及び取得予定者
※国家3級整備士資格取得者は相談に応じます。
※新卒採用は2026年3月卒業見込者及び3年以内既卒者。
※経験者採用は最終学歴や年齢を考慮します。

必要免許 普通自動車運転免許
(AT限定不可。入社までに限定解除であれば可)



詳しくは沖縄マツダホームページで▶

あなたも一緒に
働きませんか?
沖縄マツダで
働こう!



SUVの走りは、新しい次元へ

新型 MAZDA CX-60

新グレード XD SP登場

最新モデルの
店頭試乗
実施中



沖縄マツダ

営業時間 9:30~18:00 / 定休日 毎週水曜日、第3火曜日

ネットもチェック

沖縄マツダ

検索



FM-Okinawa
マツダZOOM ZOOM HOUR



Instagram
[okinawa_mazda]

浦添店

TEL (098) 877-6210
沖縄県浦添市勢理客4-1-5



知花店

TEL (098) 937-2828
沖縄県沖縄市知花6-39-3



北谷店

TEL (098) 989-6650
沖縄県中頭郡北谷町美浜2-1-5

